

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

実 施 報 告 書

プログラム名	理論と実践の往還を実感する拡散的研修体制の構築
プログラムの特徴	平成 28 年度「理論と実践の往還を実感するアクティブ・ラーニング型研修体制の構築」として採択され、教職大学院の教員と院生がチームを組み、最新の研究成果を講義と演習により能動的な研修として実施する理論編研修と、教職大学院の教員や院生が学校現場に赴き、その学校の実情に合わせて講義や演習を能動的に行う実践編研修として、実践と理論の往還を実感するプログラムを構築した。特にこのプログラムの特徴は、長野県教育委員会が把握している学校現場の実態に基づく喫緊の教育的課題を、長野県教育委員会と教職大学院教員が連携して研修を企画・運営していることにある。このプログラムの課題として、理論編研修に参加する教員は、長野県下の学校から参集することで、理論の拡散は起こりうるが、実践編研修は学校を舞台にした研修であるため、多くの学校からの依頼に応えることができなかった。 そこで、本年度は、実践編研修のシステム改善を主眼とし、拡散的研修体制を構築する。拡散的とは、情報コンテンツを作成し、インターネットや WEB、DVD 等の ICT による利活用で情報を拡散させ届けていくことであり、拡散的研修とは、理論と実践の往還を体験した理論編研修の受講者が、ICT を用いて理論編研修の講義部分の内容を伝達し、演習部分は受講者自らが体験したことを元に実施する研修のことである。あたかも受講者が、講師役となり実践編研修を行うことになり、より多くの教員へ理論と実践の往還を、所属している学校にあわせて研修を実施することが可能となる。これら理論編研修と実践編研修、拡散的研修を合わせたプログラムを拡散的研修体制という。このプログラムにより、全国の様々な学校でも、研修を実施でき、この研修を受けた受講者が次の研修の講師となることができるため、次々と研修が実施できる。

平成 30 年 2 月

機関名 国立大学法人上越教育大学

連携先 長野県教育委員会

理論と実践の往還を実感する拡散的研修体制の構築

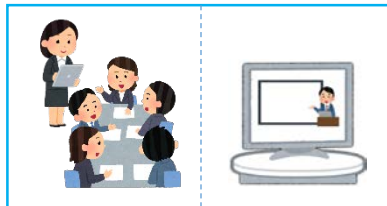
学校等で受講者が
演習・実習を担当する研修〔拡散編研修〕

長野県総合教育センターでの研修〔理論編研修〕

学校に帰り、受講者が講師役として研修(拡散編研修)を組織運営する。



6日間、12講座を実施



理論編研修に出席
した人が、自公の実
態に応じて研修を
組織、実施



拡散編研修に出席
した人が次の研修
を実施

理論編研修

講師の講演(理論):ビデオコンテンツ作成
講師の演習・実習 :マニュアルor映像を作成

拡散編研修では
受講者が講師を務め、
理論はビデオコンテンツにより視聴、
演習はマニュアルなどで実施
研修を組織、運営する力の育成

I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的

本大学の教職大学院における現職教員の学びは、開設当初から理論と実践の往還を目指した学びの実践を積み重ねることで、学び続ける教師の育成を行っている。さらに学部新卒学生は教員就職率がほぼ 100%であり、意欲をもった若手教員の養成モデルともなっている。しかしながら、教職大学院へ派遣されたり進学したりする学生数は、全国で 1000 人程度であり、教職大学院だけで、日本全国の教員や学部卒学生の資質向上を育むことは難しいことである。そこで、より多くの教員に対し資質向上を目指す取組として教育センター等で行う研修にて、大学関係者から理論と実践を往還した内容を受講しても、学校現場にその内容を適合させるのは、受講した教員個人に任されている。

本大学では、平成 25 年度から 27 年度に概算事業「教師の専門職化をフォローする研修体制の構築」、平成 28 年度に本支援事業「平成 28 年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」を受託することで、長野県教育委員会と様々な教育的課題に向けた教員研修を企画してきた。これら継続した教員の資質向上に向けた取り組みにより、研修スタイルを理論編研修と実践編研修に分ける研修プログラムを開発した。この結果、理論と実践を往還する機会を研修の中で実施することで、理論と実践を往還する体験ができる機会を作ったところ、1 年間でのべ 700 人強の現職教員が集う研修を実施した。しかし、日本全国の教員を対象者とするれば、このプログラムにも限界がある。

そこで、現在のプログラムの中で、より多くの教師に、より多くの研修内容を届けるシステム開発するため、長野県教育委員会と連携を深め、理論と実践の往還を目指した研修プログラムを構築することを目的とする。

2 開発の方法

理論編研修と拡散編研修の関係を述べる。

理論編研修は、長野県総合教育センター(センターと称す)で行う 6 日間全 12 の研修を指している。センターの他の研修時間に合わせ、午前と午後で開催時間が異なる。12 講座の内訳は、Ⅱ1(2)を参照のこと。1 日の研修で 2 講座を同じ受講者が受講している。受講内容は、講師の専門性を考慮して、大学が決めている。1 日のテーマは、長野県教育委員会が喫緊の課題をテーマの種として、大学との協議で 6 日間のテーマを決めている。理論編研修は、講義を中心としているが、演習の時間も適宜入れ、受講者が能動的な学習者となり得るような配慮をしている。理論編研修は、全ての講座内容をビデオカメラ 2～3 台で録画し、ワイヤレスマイクや IC レコーダーで講師の声を録音し、拡散編研修用の DVD に納めるデータを取得した。

拡散編研修は、受講者が自校へ戻り、DVD の映像や理論編研修で配付されたテキストを元に受講者が講師役となり研修を企画実施するので、この時間を 30 分と想定すると、映像は 10～15 分となるので、その時間で視聴できるように DVD に納めるデータは、Mac の iMovie を用いて編集し、研修の中心の理論となる部分を 10～15 分間抜き出し、テロップや講師が提示したパワーポイントの画面を挿入するなどの編集をして、映像を作成した。また、DVD には、受講者が 1 日で受けた 2 講座分の内容。拡散編研修を行う展開案やアンケート等も入れた。講座を受けた受講者全員の学校へ郵送し、希望があれば長野県外の教員や学校にも配付した。

3 開発組織

No	所属・職名	氏 名	担当・役割
1	長野県総合教育センター・ 所長	西條 浩章	教職大学院との連携の担当 (協議会副議長)
2	長野県総合教育センター・ 指導主事	齋藤 俊樹	教職大学院との連携の担当
3	上越教育大学大学院学校教育研究科・ 教授	廣瀬 裕一	開発プログラムの総括担当 (協議会議長)
4	上越教育大学大学院学校教育研究科・ 教授	桐生 徹	開発プログラムの事務担当 長野県教育委員会との連携担当
5	上越教育大学大学院学校教育研究科・ 教授	水落 芳明	研修講座の企画，運営担当
6	上越教育大学大学院学校教育研究科・ 准教授	阿部 隆幸	研修講座の企画，運営担当
7	上越教育大学大学院学校教育研究科・ 准教授	片桐 史裕	研修講座の企画，運営担当

II 開発の実際とその成果

1 理論編講座

(1) 理論研修の背景やねらい

理論編研修とは，長野県総合教育センターにおいて実施する連携講座である。主に大学教員が学校関係の教職員へ理論的な背景を含めた研修を実施している。研修項目は，長野県教育委員会が情報収集した喫緊な課題を元にし，その結果，6 項目 12 講座を実施した。それぞれの研修の目的などは(4)各研修について，を参照されたい。

(2) 対象、人数、期間、会場、日程、講師

研修項目	対 象	参加 人数	期間	会 場	日程	講師
新しい方向性としてのカリキュラム・マネジメント	小・中・高・特等の教員	45	6月8日	長野県総合教育センター	10:00～12:00	西川 純
		45	(木)		13:00～15:30	松井 千鶴子
ICT が苦手な人のための初歩の初歩講座		22	6月16日		10:00～12:00	片桐 史裕
		22	(金)		13:00～15:30	阿部 隆幸
学力向上のための学級づくり		43	6月26日		10:00～12:00	赤坂 真二
		43	(月)		13:00～15:30	早川 裕隆
病気や障がいをもつ子どもの教育支援		24	7月14日		10:00～12:00	北村 千章
		24	(金)		13:00～15:30	大久保明子
主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり		76	8月7日		10:00～12:00	松沢 要一
		76	(月)		13:00～15:30	佐藤 多佳子
グローバル人材育成を目指した授業づくり		12	9月15日		10:00～12:00	水落 芳明
		12	(金)		13:00～15:30	原 瑞穂
全参加者数		444				

(3) 各研修について

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
新しい方向性としてのカリキュラム・マネジメント	2	学校におけるカリキュラム・マネジメントに対する取組について考える	・内容：今回の改訂においてカリキュラム・マネジメントが強調された背景を、アクティブ・ラーニングとの関連で説明した。さらに、学校としてアクティブ・ラーニングを推進するためには、教科横断的であり、そのために必要な要件を述べた。 ・実施形態：講義と演習 ・使用教材：なし ・進め方の留意事項：なし
	2.5	カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程と授業のつなぎ方を考える。	・内容：カリキュラム・マネジメントの三つの側面に照らして自校の課題を明らかにした後、「視覚的カリキュラム表」の分析から、カリキュラム・マネジメントが学校の課題解決にどのように結び付くか考えた。その後、事例をもとに、教育課程、年間計画、1単位時間の関係性について検討した。 ・実施形態：講義と演習 ・使用教材：上越市小中学校「視覚的カリキュラム表」 ・進め方の留意事項：「視覚的カリキュラム表」の比較分析による具体的理解

ICTが苦手な人のための初歩の初歩講座	2	授業で使うプリントを教室で拡大投影して撮影して説明することができるようになる	・内容： プリント文書をスクリーンに投影する授業の効果を説明した後、普段紙に印刷しているプリントをそのままスクリーンに投影する技術を身につける。グループになり、協力して、教材に書かれてあることをもとに試行錯誤しながら各自で持ち寄った文書ファイルをスクリーンに投影する。 ・実施形態： 講義と演習 ・使用教材： スクリーン投影手順をまとめたプリント ・進め方の留意事項： 各グループの進捗状態を把握し、進度の速いグループを参考にするように可視化する。
	2.5	子どもたちがiPadを活用する授業を試みることができるようになる	・内容： 学習道具としてiPadを考えたときにどんなことができるか、iPadに使い慣れていない先生を対象に演習を通して感じてもらった。実際に、一人1台、班に1台のiPadの環境が実現したときにどのような授業ができるか、したいかを考えてもらうことができた。 ・実施形態： 講義と演習 ・使用教材： 特になし ・進め方の留意事項： なし
学力向上のための学級づくり	2	子どもの主体性を引き出し、協同性を高めるための教室環境の設定ができる。	・内容： 学習効果の高い学級経営をしている教師が実践しているリーダーシップや学習環境の設定方法を具体的に紹介。機能している主体的・対話的で深い学びの実践例から、高い主体性や協同性に基づく学習が成り立つための条件を受講者がディスカッションしながら考えた。 ・実施形態： 講義と演習 ・使用教材： 特になし ・進め方の留意事項： 特になし
	2.5	特別の教科 道徳が目指すものとその効果について、『質の高い多様な指導方法』としての役割演技の演習から、効果を実感する。	・内容： いじめ問題に果たす道徳科の役割についての理解を深めると共に、特に「質の高い多様な指導方法」として注目される役割演技の、いじめ問題への対応に関する効果的な活用について、その弊害も理解した上で実感的に明らかにする。 ・実施形態： 講義と演習 ・使用教材： 教材「およげない　りすさん」（『わたしたちの道徳　小学校1・2年』文部科学省） ・進め方の留意事項： 役割演技の効果は「実感的」なものであるだけに、ネガティブな気分を味わうと心理的なダメージを負うので、その弊害を十分理解して、注意深く利用する。

病気や障がいをもつ子どもの教育支援	2	障がいをもつ子どもたちの学校での体験について理解する。	・内容：小児医療の進歩で、さまざまな病気をもつ子どもたちの生存率が改善され、成人期を迎える子どもたちが増加している。慢性疾患をもちながら学校で学ぶ子どもたちの声や現状から、医療と教育の連携の必要性を確認しあい、今後の方向性について共に考えた。 ・実施形態：講義形式 ・使用教材：パソコン、パワーポイント ・進め方の留意事項：事前に教育関係の方から発表資料についてのご意見を頂き、医療用語が理解できるように配慮した。
	2.5	小児がん患児の教育体制や学校生活に関連した子どもの思いについて理解し、復学支援における学校と医療の連携について考える。	・内容：長期入院後の復学に関する子どもの悩みや教員の困難、および小児がんと共に生きる子どもの状況や思いについてDVDを用いて解説した。また、小児がんの発生機序や後遺症、学校生活での健康管理上の配慮事項等について解説した。その後、病気や障がいのある子どもたちへの教育支援についてグループワークを行った。 ・実施形態：講義と演習 ・使用教材：配布資料とDVD ・進め方の留意事項：なし
主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり	2	算数・数学科の学習過程で「疑問や問い」が児童生徒に生まれるようにするために、教材をアレンジすることができる。	・内容：算数・数学ワーキンググループは、学習過程の中に「疑問や問いの発生」を授業の前半と後半に位置付けている。このことを実現するために、教材をアレンジする視点から具体的な教材とそのアレンジ方法について考え、演習を交えて理解を深めた。 ・実施形態：講義と演習 ・使用教材：別紙配付資料 ・進め方の留意事項：なし
	2.5	国語科における「深い学び」とは何かを理解し、対話によって主体的で深い学びに導く学習デザインについて考える。	・内容：読者反応理論の考え方に基づいたワークショップを通して、国語科における深い学びとそのための学習デザインについて理解する。特に、教材との対話・他者との対話・自己内対話を促す問いの立て方について考える。 ・実施形態：講義およびワークショップ ・使用教材：なし ・進め方の留意事項：ペア対話、ホワイトボードを用いたグループ対話などの参加者相互のかかわりによるワークショップ

グローバル人材育成を目指した授業づくり	2	外国語活動に不安を感じる先生方と一緒に、学び合いやICTを取り入れて実践する外国語活動について理解する。	・内容：まず、学習指導要領改訂において、主体的・対話的で深い学びが求められている背景や、外国語活動で目指すべきことを確認した。その後、ICTを活用した学び合いによる実践研究の成果と、成果の出るメカニズムについて、実践における具体的データに基づいて解説した。 ・実施形態：講義と演習 ・使用教材：PPTと自作資料 ・進め方の留意事項：インターネットに接続可能な無線環境があることが望ましい。
	2.5	子どもたちが自分の足元を見つめながらも「地球市民」の一員としての生き方を考え、行動できるような学習デザインを理解する。	・内容：左記の目標に迫るため、児童生徒がグローバル社会に伴い直面している課題について自分の事として捉えられることを目指して作成、実施した事例を紹介し、参加者と検討した。事例は「総合的な学習の時間」における地域学習の单元及び異文化理解のワークショップである。 ・実施形態：講義と演習 ・使用教材：特になし ・進め方の留意事項：特になし

(4) 理論編研修の評価方法、評価結果

① 理論編研修の評価方法

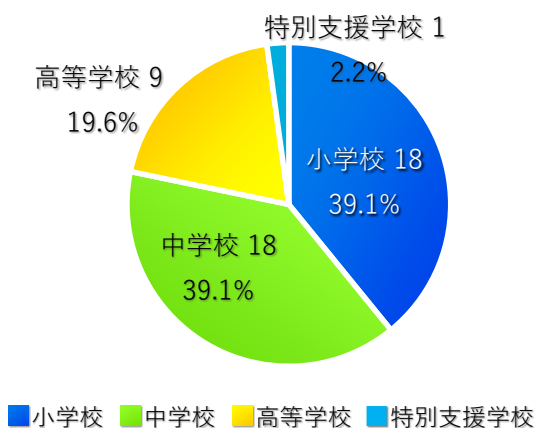
1日の講座終了後にアンケートを実施し、それをまとめた。

② 理論編研修の評価結果

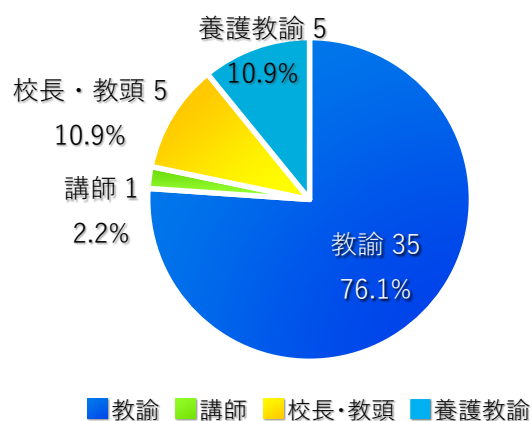
第1回 6月8日(木)

学校力・学力の向上を目指す研修					
講座コード・講座名・選択可能研修種別			実施日	研修の概要・連絡等	
カリキュラム・マネジメント	3-2-11-01 新しい方向性としてのカリキュラム・マネジメント ～みんなで取り組もうカリキュラム・マネジメント～		6月8日(木)	新しい学習指導要領の柱であるカリキュラムマネジメント。 午前は、学校でカリキュラム・マネジメントに取り組むにはどうしたらいいか？ポイントは「何をすればカリ・マネ？」ではなく「何のためのカリ・マネ」なのです。 午後は、カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程と授業のつなぎ方を考えます。「教育課程は教育課程、授業は授業」という分離された状況を変えていきましょう。 講義 「カリキュラム・マネジメントって、何？」 講師 上越教育大学教職大学院 教授 西川 純 講義 「教育課程と授業をつなぐカリキュラム・マネジメント」 講師 上越教育大学教職大学院 教授 松井 千鶴子 ・持ち物 なし	
	幼小中高特専	義初 高初 中堅 希望			
	20名				

学校種



受講者の職能



受講者の感想

講義 「カリキュラム・マネジメントって、何？」 講師 教授 西川 純

- 何のためにカリキュラム・マネジメントをするのかということをまず考えることが大切であると感じました。



- 自分のイメージでは、どの教科をどのように構成していくかというように思っていたのでとても刺激的でした。
- カリキュラム・マネジメントが何を指せばいいのか、その一解釈を、実践方法を踏まえて講義いただけたのがよかったです。
- 自分自身の見方・考え方を変えつつも、納得できる説明ができるように働きかけ方の工夫をしていきたいと気持ちを新たにしました。
- 人とかかわりの苦手な子を変えるのではなく、そのまわりの子の子へのかかわり方を変えればいいのかという考えが大変心に響きました。
- 「何を学ぶか」「どう学ぶか」を定められた時間で矛盾させないで学ぶためにカリキュラム・マネジメントが必要ということが胸に落ちました。10年先、20年先を見

据えて、今、目の前の子たちに何が必要なのかよくわかりました。

- 「一人も見捨てない」というお言葉が心に残りました。
- 授業を通して生徒同士がつながりを築き上げていくことの重要性を感じました。そのためには、我々教師も教科

や学年、場合によっては学校という枠組みを超えることが必要になると感じました。

- カリキュラム・マネジメントについてだけでなく、“目の前の生徒を何とかしたい”という根本的な気持ちを再認識することができた。

受講者の感想

講義 「教育課程と授業をつなぐカリキュラム・マネジメント」 講師 教授 松井 千鶴子



- 実践例（カリキュラム）を見ながらの演習は「伝わるカリキュラム」に仕上げることの必要性を感じた。「社会に開く」という点でも大切にしたいことと感じた。
- グループ協議が、とてもおもしろかった。私のような新米教員としては、他校の先輩から実践や考えを学べるよい機会でした。
- カリキュラム・マネジメントの三つの側面を学んで、その学校の課題解決のためにどうマネジメントしたらよい

か、しっかり考えなければならぬと思いました。

- カリマネの進め方や考え方にヒントをもらえた。どのように進めていけばよいか、グランドデザインを主にしていくといった点を参考にして、取り組んでいきたいと思った。
- 高田市内の小中学校をモデルとした大変分かり易い講義であり「学校課題と結びついてこそ価値がある」といったことがよくわかった。
- カリキュラム作りは、職員研修の時間をとって、皆で行っていききたいと感じました。
- 年間指導計画（2学期以降）を見直し、教科の横断的つながりを意識した思い切ったマネジメントになるよう、先生方に再度考えてもらおうかと思いました。
- カリキュラム・マネジメントは学校全体で課題に向けて取り組むべきということが自分の中に落ちて良かった。
- カリキュラム・マネジメントとはどういうものなのか、改めてよく理解することができました。自身の学校体制の理想にとっても近いものでした。
- 総合を中心にカリキュラムを組み立てるという大変参考になる内容だった。

講座のねらいの達成度

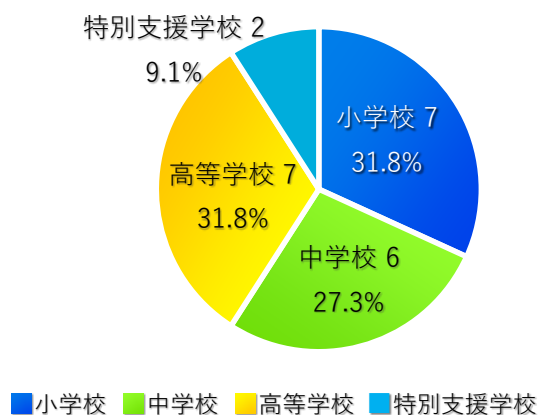
受講者数も多く、半数以上が管理職または主任等であった。講座の中では、どの協議の場面においても熱心に話し合いが行われた。午後のグループ演習ではグループによっては、休憩時間の間中ずっと話し込むグループもあれば、研修室のあちこちで、隣席者同士話し込む様子がみられたことが印象的であった。

感想からは、カリキュラム・マネジメントの三つの側面について、従来からのPDCAに加えて、教科横断的な視点での内容配列、教育内容とリソースの効果的な組み合わせが加わったことへの理解や、教育課程とつながりのある授業の構想・実践への意欲が多くみられたことから、講座のねらいは概ね達成されたと思われる。

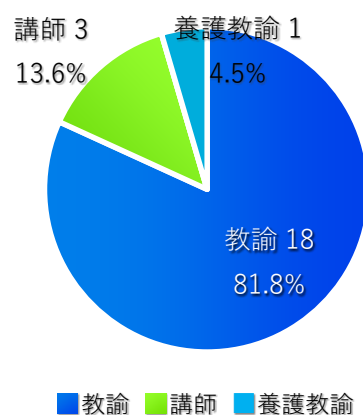
第2回 6月16日(金)

学校力・学力の向上を目指す研修					
講座コード・講座名・選択可能研修種別					実施日
ICT活用	3-2-11-02 ICTが苦手な人のための初歩の初歩講座 ～ICT活用授業にチャレンジ！～				6月16日(金)
	幼小中高特専	義初	高初	中堅	
	20名			希望	
					研修の概要・連絡等
					事務業務以外にICTを活用したことのないというICTに苦手意識を持つ方のみ受講可能です。 授業で使うプリントを教室で拡大投影して説明したいときはありませんか？午前は、そんな時、重いPCを持ち運ばなくてもよい技を体感しましょう。 午後は、子どもたちがiPadを活用する授業を試みます。協働的にICTを活用するアクティブ・ラーニング授業の最初の一步を踏み出しましょう。 講義 「iPadやiPhoneを用いたお手軽スクリーン投影術」 講師 上越教育大学教職大学院 准教授 片桐 史裕 講義 「楽しく子どもたちが授業で行うICT活用授業、最初の一步」 講師 上越教育大学教職大学院 准教授 阿部 隆幸 ・持ち物 USBメモリに授業で使用する自作プリント(Word, 一太郎等)

学校種



受講者の職能



受講者の感想

講義 「iPad や iPhone を用いたお手軽スクリーン投影術」 講師 准教授 片桐 史裕



- 手取り足取りの状態で行って、投影されたことを実感できたことは嬉しいものでした。
- 今日の内容のことをやりたいと思っていながら周りにできる人がおらず、自分で学ぶ時間もとれずにいました。すぐにでも自分の機械で実践しようと思います。
- 実際の活用場面や内容がイメージできるものでよかったです。
- わからないことを共有することで安心感が生まれまし

た。グループで考えを話し合い雰囲気になります。

- わかり易く説明していただきテキストも見易かったです。少人数で一人一人できたのでよかったです。
- 具体的にタブレットを操作でき、環境を直ぐに揃えてみたいという意欲が湧いた。
- 講師の先生が気さくで気軽に質問できました。グループ学習なので安心して取り組みました。一人だと遅れたりわからないことばかりなので、受講して良かったです。
- 発見が多くありました。こんなことが出来たらいいなと思うことがあったので、iPad を手に入れる方法を画策したい。
- 簡単に投影できて感動しました。変換テーブルを早速購入して授業の中で投影してみたいと思います。iPad を購入したので活用していこうと思います。
- グループで行うことで他人が試して上手くいったことや難しかったことが近くで共有できて良かった。初歩の初歩講座では「だめでもともと」の意識で臨めた。
- 簡単な所からその先まで、一度に頭に入ってきて大変ですがとても勉強になりました。もっとやりたかった。

受講者の感想

講義「楽しく子どもたちが授業で行う ICT 活用授業、最初の一步」 講師 准教授 阿部 隆幸



- ICT の様々な使い方を教えていただき、すごいことができるのだと知りました。フラッシュカードから ICT へ少しでも取り入れたいと思いました。
- 「できること」の例をたくさん教えていただきました。最後に紹介していただいた「修学旅行の報告ビデオ」は子どもの学習成果発表の方法として実践したいです。

- MetaMoJi Note を使った授業実践は難しそうですが、いろいろなことができることがわかり、iPad 活用への意欲はもてました。
- 自分が子どもになったように楽しみながら学べました。
- 漢字のよみ、書きの問題を書字障がいの子と使ってみたいと思いました。機械音痴の私でもアプリを使ってやってみたいと思いました。
- クイズ作成や動画作成、スキャンなどこれほど手軽とは意外だった。
- 実際に使ってみて、楽しい！と思いました。主体的に学ぶ仕掛けを考えていきたいです。
- 生徒と同じようにわくわくしながら勉強し、新たな発見があり有意義な時間となりました。
- 「アイディア」自体が参考・刺激になりました。テスト前の復習プリントをこちらが作成するのではなく、「生徒にクイズを作る時間を与え集めよう」と思いました。

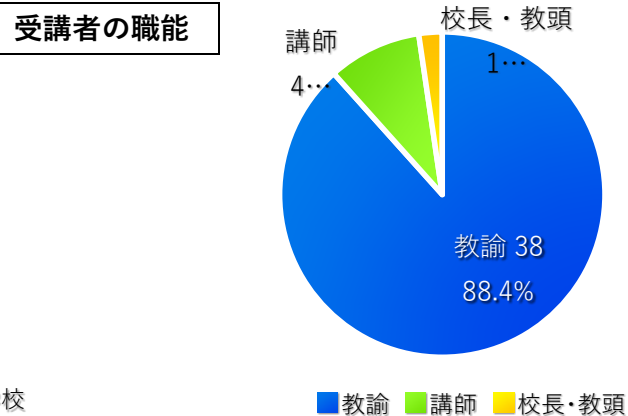
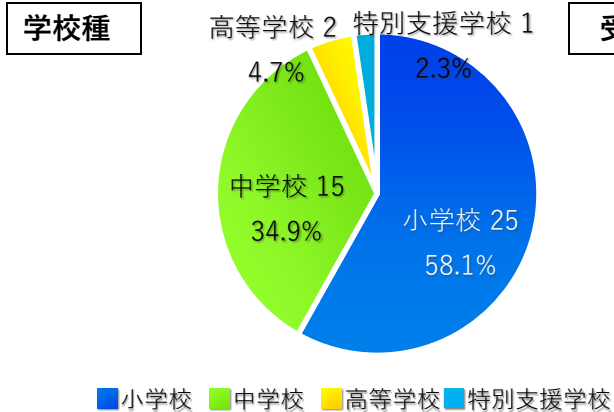
講座のねらいの達成度

各自の持ち寄り教材を PowerPoint に貼り付けてプロジェクターに投影できると、拡大縮小できることに各グループからは「おー！」「凄い！」という声が上がっていた。グループ内の対話が多く、わからないことをわからないと言え「じゃ〇〇もできますよね」といった新しい発想の提案もあり、対話による学びの深まりが起こっていたと思われる。

ICT を使うことは実は簡単なことが分かり、活用への意欲が伺える感想が多くみられた。ICT が苦手と感じる教職員が、未来に活躍する子どもと一歩でも共に歩むこと、スクリーンに投影するスキルを身につけ、ICT を生かして「思考力」「表現力」を身につける活用のヒントを持ち帰るというねらいは概ね達成できたと思われる。

第3回 6月26日(月)

学校力・学力の向上を目指す研修					実施日	研修の概要・連絡等
学級づくり	3-2-11-03 学力向上のための学級づくり ～役割演技と協働性を高める学級をめざそう～				6月26日(月)	子どもの集団としての価値をいかに身につけたらよいのか？ 午前は、子どもの主体性を引き出し、協働性を高めるには教室の環境設定が重要な鍵を握ります。これからの学級経営の充実を図るにはどうしたらよいのでしょうか。 午後は、道徳の教科が目指すものとその効果について、「質の高い多様な指導方法」としての役割演技の演習を中心に実感することを目指します。 講義 「主体的な学びの時代の学級集団づくり」 講師 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二 講義 「いじめ問題への対応の充実と「特別の教科 道徳」」 講師 上越教育大学教職大学院 教授 早川 裕隆 ・持ち物 なし
	幼小中高特専	義初	高初	中堅		
	20名			○	○	



受講者の感想

講義 「主体的な学びの時代の学級集団づくり」 講師 教授 赤坂 真二



- 自分の学級を振り返り、改めて考えていくきっかけをいただいた。
- 気になる児童にばかり意識がいていたので、一生懸命取り組んでいる子の存在を認めていってあげたい。
- 「主体的・対話的」な学びの基盤には、あたたかな学級経営があること、教師の役割が大きいことを学んだ。

- 「勇気づけ」の言葉のレパトリーが増えました。
- 「キャリア」の視点をもって指導することの大切さを学んだ。
- ①あたたかさを創ること②できることを増やすこと③ともに学級を創ること、この三つを心に留めてあたたかい学級づくりをしていきたいと思った。
- この仕事をもっと楽しみたい、あたたかい学校をつくりたいと沸々と心の中に湧き上がってくるような時間でした。
- あっという間に時間が過ぎ、自己反省とこれからやるべきことを与えられたような感じになりました。
- 主体的・対話的で深い学びを支えるためには、OSとなる学級・環境が大切なのだと感じました。
- 子どもたちを信じて期待をしてリスクをとっていける人でありたいと思います。
- 安心・安全なところから主体が生まれることを改めて確認できました。

受講者の感想

講義 「いじめ問題への対応の充実と「特別の教科 道徳」」 講師 教授 早川 裕隆



- 役割演技のもつ意味、その価値づけ、まとめ方についても非常に参考になりました。いじめの場面の役割演技を行わないことをしっかり肝に銘じておきます。
- こんな風に子どもたちと道徳をすることができたらいいなと思われました。

- 早川先生の問い返しが適切で、深まっていくきっかけになっていた。この問い返しを工夫していきたい。
- ロールプレイすることで、(子どもが)より深い学びができることが知れた。すぐに授業に取り入れたいと思います。
- 「見ていてどう見えた？」と観客側の子に問い返すのは経験がないのでとても新鮮だった。
- 早川先生の具体的な模擬授業が、自分の実践と照らし合わせて、とても勉強になった。
- 小学生用の道徳でしたが、中3生にも使いたい教材であることを感じました。
- 役割演技を行うためにもあたたかい学級づくりが大切だと思いました。
- 「引き出す」ことの大切さを強く感じました。
- 見ている側なのに、常に、自分の頭が動いているのを感じ、主体的に参加できたように思った。

講座のねらいの達成度

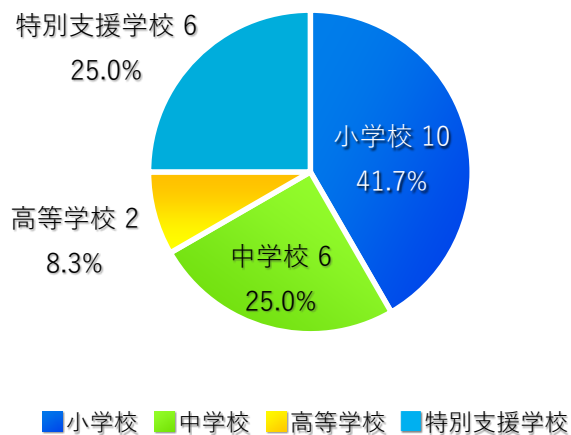
講師お二人の講座の進め方そのものが、「主体的・対話的で深い学び」の具体を示してくださっており、対話からの考えの深まりや、実践に向けての「創造」が進んだと思える感想が多かった。講義を授業に置き換え捉えて、講義内容だけでなく、場の作り方・発問の仕方において「見方・考え方」を働かせていたと思われる。

受講者の感想には、受講者自身の自らを見つめ直すことから、教室環境改善への意欲と具体が挙げられている。また、演者だけの体験に留まらず、観客側となった受講者にも十分その効果への理解の深まりがわかる感想が多いことから講座のねらいについては概ね達成できたと思われる。

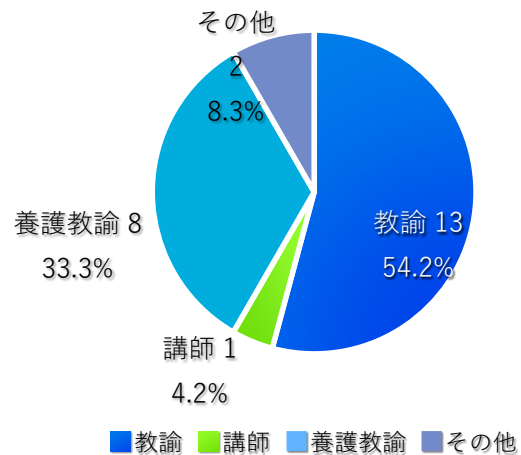
第4回 7月14日(金)

学校力・学力の向上を目指す研修					
講座コード・講座名・選択可能研修種別					実施日
法改正対応・注目動向	3-2-11-04 病気や障がいをもつ子どもの教育支援 ～子どもが望む医療と学校の連携～				7月14日(金)
	幼小中高特専	義初	高初	中堅	
	20名			○	
					研修の概要・連絡等
					子どもの次のステージには何が待ち構えているのか？ 午前は、障がいをもつ子どもたちの学校での体験についてお伝えします。共につながってできる支援について考えましょう。 午後は、小児がん患児の教育体制や学校生活に関連した子どもの思いについて解説し、復学支援における学校と医療の連携について考えていきましょう。 講義 「病気や障がいをもつ子どもの就学支援」 講師 新潟県立看護大学 講師 北村 千章 講義 「長期入院を要する子どもの復学支援」 講師 新潟県立看護大学 准教授 大久保 明子 演習 講師 上越教育大学教職大学院 教授 桐生 徹 ・持ち物 なし

学校種



受講者の職能



受講者の感想

講義 「病気や障がいをもつ子どもの就学支援」

講師 新潟県立看護大学 講師 北村 千章



- 非常に具体的なエピソード、困った時にどこに連絡するかなど今後の活用場面がイメージしやすい内容でした。
- 大人になったときの姿を描きながら、その子どもにかかわることの大切さ、努力しながら連携することが今後どれほど重要になるのか教えて頂きました。
- 学校、医療、子ども、保護者の情報共有から支援が始まり、子どもや保護者の思いを大切に押し付けの支援にならないようにしていきたいと思いました。支援の流れがとてもよくわかりました。

- 子どもの未来が開けていることがわかり、前向きな対応を教えてくださいました。
- 難しいケースもある中で、お話しくださった「その時出会った人が、気付いた人が、出会った段階で努力する、つながる、支援する」という言葉が印象的でした。
- 本人の言葉でその病気を説明してもらおうということとはあまり考えていなかったもので、本人の説明、理解が大切だと思いました。
- 病気や障がいのある子ども（辛い思いをしている）がさらなる辛さを感じなくても済むような支援をしていきたい。
- クラスに心臓弁膜症の生徒がいるので直接役に立ちました。
- 様々な社会資源と、それにつながる方法を具体的に学ぶことができた。
- 医療と教育ネットワーク、CLS についてとても分かり易く必要性を感じて聞くことができた。

受講者の感想

講義 「長期入院を要する子どもの復学支援」 講師 新潟県立看護大学 准教授 大久保 明子



- CLS(チャイルド ライフ スペシャリスト)や22番染色体異常のある子について知らなかったのが勉強になった。
- 自分は何もしらないなあ、知ろうともしていなかったなあと思いました。クラスの子に闘病する子がいたら、どうやって対応しようか想像しながら理解を深めていました。
- 「がん」についてもそうですが、まず私たちが正しい知識をもち、共に考えていく基礎をつくっていかねばならないと思いました。
- レジメやDVDを通して丁寧に説明してくださり、とても分かり易かった。
- 子どもの学校とのつながりが治療のはげみになること、学校に戻った時の入りにくさをなるべく減らせるようにフォローすることが院内に求められていることを再

認識しました。

- 病気と戦い乗り越える子どもたちと家族の背景を教えて頂き胸がいっぱいになりました。
- 今まで発達障がいのある生徒たちの支援についてばかり考えるばかりでしたが、病気をもつ子どもたちの教育支援や、またその後の就労に関わる現実、実体を考えることができました。
- うまく復学する雰囲気づくりを集団にしておくことの大切さを感じました。
- 「待っているよ」という思いを伝えることが大切だと感じました。本人だけでなく兄弟や保護者への支援の必要性に改めて気づかされました。
- がん治療も私が臨床実習した頃より成果が上がっていることがよくわかりました。
- 視点は異なってしまいましたが、がん、長期入院を要する保護者を抱えた生徒を複数名担当しています。そういった家庭の生徒の気持ち、家庭内で行っている介護が分かりました。学校現場の研修で医療、特にがんについて触れていただいたのは画期的で有難かったです。
- がん治療の子どもへの対応は、「まさに今」直面していることだったので、とても参考になりました。
- 子どもの保護者の思いに心をよせること、「子どもを支える」立場だけでなく、大人も自分の子どもとともに病気に立ち向かっているという言葉にはっとしました。

受講者の感想

ワークショップ 「「自分ごと」にしよう。あなたは、明日から、何ができますか」

コーディネーター 教授 桐生 徹



- 今まででは支援について考えるばかりでしたが、教育支援や就労について考えることができた。
- 多くの先生と話せて、今悩んでいることを話せ、アドバイスをもらえ良かった。
- 自分には無かった視点を交流しながら学ぶことができ

た。特に、その具体まで聞くことができたことが明日に繋がると思います。

- 他のグループに聞きに行く(ワールドカフェ)というのは面白い活動だと思いました。
- 置かれている立場がいろいろ異なりましたが、学んだことはほぼ同じだなと共感できました。
- 他の先生からご意見をいただくことで、やってみたいことを見つけることができました。
- 「自分が」できること、長期的に取り組むことが、自分の中で整理されて、ありがたかったです。「子どもの幸せ」を願ってまず動くこと！そう思える力が湧きました。
- 本日の振り返りの時間が確保され研修内容を「自分ごと」にできました。
- 他の人と自分の考えを発表しあうことは、自分の考えを深めることにつながったので良かったです。
- 他の先生方の気づきを知ることで、今回の研修の生かし

方を学ぶことにつながりました。

- グループで KJ 法を行うことにより、新たな知見を得ら

れました。

- ワークショップの進め方が現場でも生かせそうです。

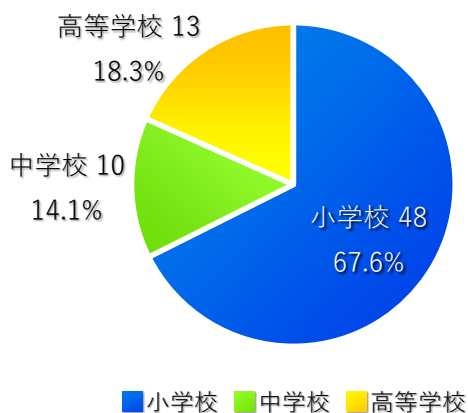
講座のねらいの達成度

受講者の感想からは、具体的に所属の子どもを思い浮かべながら事例を聞いて今後に生かした方と、今直面していないが故に新たな視点と知見を得られた方の二通りがあったことがわかった。桐生教授がコーディネーターとなってすすめられたワークショップはとても好評であった。両講義を通して得られた気づきをアウトプットすることで、更なる気づきを得られ自身の考えを深めることに繋がった。このことから「障がいをもつ子どもが学校にいる間、どのように感じ生活しているのか考え合い、それを元に支援について知恵を出し合う」というねらいと「小児がん患児の教育体制や学校生活に対する子どもの思いや状況を考え合い、復学支援における学校と医療の連携について考え合う」というねらいはどちらも概ね達成できたと思われる。また「学校と医療機関連携へのニーズはある」との意見から、今後も継続発展させたい。

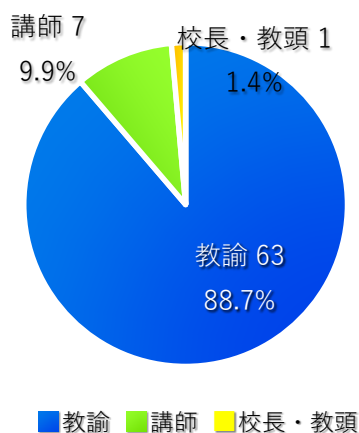
第5回 8月7日（月）

学校力・学力の向上を目指す研修					
講座コード・講座名・選択可能研修種別					実施日
授業改善	3-2-11-05 主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり ～アクティブ・ラーニングの再考～				8月7日（月）
	幼小中高特専	義初	高初	中堅	
	20名			希望	
					研修の概要・連絡等
					主体的・対話的で深い学びの実現が求められています。 午前は、算数・数学科の学習過程で、「疑問や問い」が児童生徒に生まれるようにするために、どのような改善を図るかを考えます。 午後は、国語科における「深い学び」とは何かについて考えます。 教材との対話・他者との対話・自己内対話によって主体的で深い学びに導く学習デザインについて語り合います。 講義 「「疑問や問い」が生まれる算数・数学の授業づくり」 講師 上越教育大学教職大学院 教授 松沢 要一 講義 「対話を核とした国語科の学習デザイン」 講師 上越教育大学教職大学院 准教授 佐藤 多佳子 ・持ち物 なし

学校種



受講者の職能



受講者の感想

講義 「「疑問や問い」が生まれる算数・数学の授業づくり」 講師 教授 松沢 要一



- よい仕掛けは学習者を夢中にすることを実感しました。
- 同じ問題でも発問のしかたで全然違うと知れた。
- “共通点はないと思っていたのに、共通点があることに気づく”ことは、とても楽しいことだと感じました。
- 子どもたちが自ら学び考えていくための問いや仕掛けが具体的に学べ、勉強になった。
- 他学年の内容との系統性・関連性を振り返ったりすることで、今まで学んできたことに付け足して考えられるということは勉強になりました。
- 教えて頂いた仕掛けは、子どもが確かに主体的に学びたくなるようなものがあつたので実践してみたい。
- 本質に迫る教材研究の大切さを改めて思われました。
- 整理され、分かりやすく、聞き取り易い語り口は、授業者として話し方のとても参考になりました。
- 私自身、展開図が苦手なのに、なんとか頭の中で想像できることに驚きました。
- 一通りの答えを求めるのではなく、複数を問うのはすぐ実践してみたい。教材研究する上での視点を頂きました。
- 問題を解き終わって終りではなく、既習の2つのものを比べることにより深い学びになるという言葉が印象的でした。
- どの仕掛けも聞いていてわくわくしました。算数の面白さを久々に感じました。
- 見つけるよさや楽しさをつみあげていくとよいのかなと思いました。小中の連携が大切だと思いました。
- 問いや疑問から始まり、新たな問いや疑問が生まれる単元を作っていくことの必要性がわかった。
- 私は国語科なのに、これが国語ならどう生かせるだろうとずっと考えることができるお話だった。(複数回答)
- 自分が試行錯誤しながら取り組んでいる授業改善の方向が間違っていないことを再確認できました。
- 小中の内容でしたが、いかに高校で使えるかを考えることができた。

受講者の感想

講義 「対話を核とした国語科の学習デザイン」 講師 准教授 佐藤 多佳子



- 「問い」の設定のために、自分の読みを深めなければならないと実感しました。
- 多様な答え、質問を受け入れる問いを自分たちで作っていく要件を知れた。
- 自分の読みと他の人の読みを共有し合うことで、いろいろな考えを導くことができた。
- 1人で教材研修するのではなく、学年会など数人でできるとさらに効率のよい有効な教材研究ができることを学びました。
- グループの先生方と読みを深めることで楽しく学ぶことができました。問いをつくってみたいと思いました。
- 対話することで学びを深めていくということを「初恋」の読み取りを通して実感できました。
- 自分の考えを書けない子への支援を十分に行わないといけないと思いました。
- 「初恋」の教材は、「こう考えれば」「こんな所も…」など、終わったあとも自然と考えていました。
- 教師が自分の読みを作り、中心的問いを考えることを知りました。
- 「教材は50回以上読め」と言われたことがあります。今日、ようやくその意味が少し理解できました。
- 問いを作るために読者反応表出法のように具体的な方法があると知り、もっとじっくり学びたいと思いました。
- 「問い」次第で学習の深まりが変わることがよくわかりました。
- 対話ありきではなく、個々の考えがあり、対話を通して深め、更に個人の思考を再構築するという課程を大切にしていきたいと思いました。

- 子どもたちの「自分の読み」を大切にしたい。私も自分の読みを大切にする。
- どのような問いを立てるかが、いつもどうしたらいいか

よく解らなかったのですが、対話によって問いを作るという方法を教えていただいたので授業でもやってみたいと思います。

講座のねらいの達成度

学習指導要領の改訂の方向性のなかで、重視すべきは「疑問や問いの発生」について触れ、TIMSSの結果も、先日の所員会で触れたようにPISA同様に日本の弱点は「意欲」と指摘された。「疑問や問い」を生む6つの仕掛けを、受講者に問いながら、具体的な例を示して授業と同じように紹介してくださった。受講者の感想からは、気づきの多い時間となったこと、算数・数学が専門外の先生方が引き込まれて取組んだこと、特に、教材研究の大切さを再認識したことがわかる。

このことから、算数・数学科の学習過程で「疑問や問い」が児童生徒に生まれるようにするには、どのような授業改善を図ればよいかを考えるというねらいは概ね達成できたと思われる。

文学の読みの学習における深い学びとは、既知の知識を発動させ、つまずき、戸惑いながら、他者とのかかわりを通して、作品全体を一貫して説明できるような自分の読みを形成し、また他者とのかかわりを通して作品に対する自分の考え、感想を深めること。経験を通して資質・能力が育まれる「本質的な問い」（学習デザイン）においては、教師が何を問うかが重要であることについてお話された。

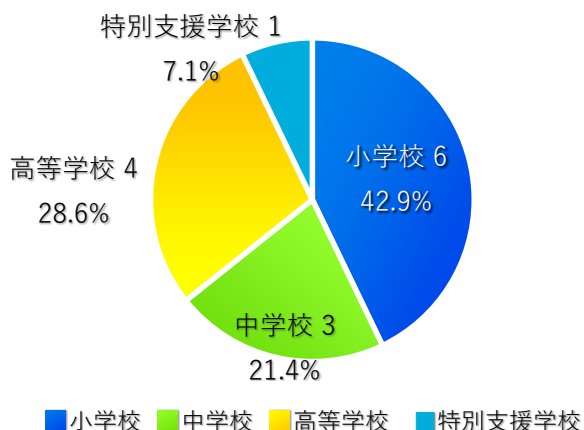
グループでの対話により考えが深められていくことを実感している感想が多くみられた。

このことから、国語科における「深い学び」とは何かに焦点を当て、教材との対話・他者との対話・自己内対話によって主体的で深い学びに導く学習デザインを考えることを通して、アクティブ・ラーニングを再考するというねらいは概ね達成できたと思われる。

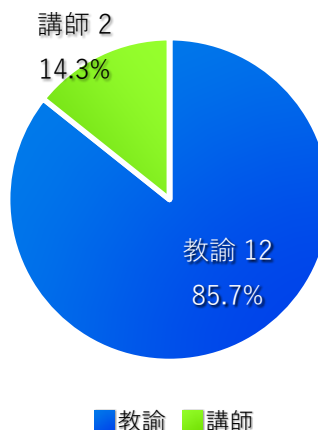
第6回 9月15日（金）

学校力・学力の向上を目指す研修					
講座コード・講座名・選択可能研修種別					実施日
授業改善	3-2-11-06 グローバル人材育成を目指した授業づくり ～はじめの一歩～				9月15日（金）
	幼小中高特専	義初	高初	中堅	
	20名			○	
					研修の概要・連絡等
					未来の子どもの姿を今論じましょう。 午前は、外国語活動に不安を感じる先生方と一緒に、学び合いやICTを取り入れて実践する外国語活動について考えます。 午後は、子どもたちが自分の足元をみつめながらも「地球市民」の一員としての生き方を考え、行動できるような学習デザインを考えましょう。 講義 「学び合いとICT活用で取り組む外国語活動」 講師 上越教育大学教職大学院 教授 水落 芳明 講義 「多文化多言語社会におけるグローバルでローカルな授業づくり」 講師 上越教育大学教職大学院 准教授 原 瑞穂 ・持ち物 なし

学校種



受講者の職能



受講者の感想

講義 「学び合いとICT活用で取り組む外国語活動」 講師 教授 水落 芳明

- アクティブ・ラーニングの考え方やICT活用の考え方が、今まで考えていたものと違ったため、新しい発見と

なりました。

- ICTを上手に使う「教えあい」ではなく「学び合い」

をしていけるようにしていけたらいいと思いました。

- 教師の仕事の軽減化のヒントを得た。
- これからの社会を生きていく子ども達に必要な「人間わざ」を育成することが、どれだけ大事なのかを考えさせられました。
- 授業におけるタブレットの可能性と翻訳アプリの活用に興味を持ちました。
- 次期学習指導要領や高大接続で重視されていることと

つながりました。ICTを活用した具体例をもっとお聞きしたかったです。

- ICTでの学びが中学、高校の学びへどう連携させていくのが課題になると思います。
- なぜ大学入試が変わり、今後ともめられる人材はどのようなものか、さらにそれに対し教員がどのような視点で臨んでいけば良いかよく分かった。

受講者の感想

演習 「学校で行うグローバル人材育成はどうしたらよいか」 コーディネーター 教授 桐生 徹

- この研修に興味のある先生方との話は面白かったし、楽しかったです。自分の考えを整理するいい機会になりました。
- 総合的学習での学習内容のヒントを得た。
- nits café で語り合ったことが、今回の研修で一番に講座の内容理解を深める時間でした。
- nits café とても楽しかったです。お茶と音楽で堅苦しい雰囲気でなくなることが不思議に思いました。
- 少人数グループでの活動と他グループの意見を聞く時

間は有意義な時間だった。

- それぞれの考え方や意見の違いがKJ法で視覚化され分かり易かった。
- 活発な話し合いができて、とても楽しめた。意見を言い合うことで新しい視点に気づいたり、自分が一番大切に思うこと、思考を整理できた。
- 様々な意見交換ができ、今まで自分が考えたことを共有してもらえたことで方向性が見えました。

受講者の感想

講義 「多文化多言語社会におけるグローバルでローカルな授業づくり」 講師 准教授 原 瑞穂

- その子その子らしさ、好きなこと、得意なことをさらに伸ばす支援を、明日からは「教える」という言葉は使わず「学びあい」とします。
- グローバルな視点を持ち、今の単元を考え直すと、いろんな発見ができそうです。メガネの資料、おもしろくて、クラスでもやってみたいと思いました。
- 実際に国際理解教育の実践をされている大学院生の指導案・授業プランが見られておもしろかったです。ぜひ実際の授業もみてみたいと思いました。

- 指導要領に基づく授業づくりの基本が確認できた。
- 2つの試み（授業プラン）を通じて「グローバルでローカルな教育」の難しさを感じます。あまり考え過ぎずにできる授業があったらいいなあ。
- グローカルのことが知れたように思います。
- グローカルな教材を初めて目にした気がします。世界とつながっていることを、なかなか実感できないが、気づけばつながっていると分かる。それを示してあげる、気づかせることが一歩だと思った。

講座のねらいの達成度

今後10年から20年の間に現在アメリカにある職業の47%がコンピュータに取って代わられると予想されていることは、日本においても同じであるというショッキングな解説に始まり、労働人口における非正規の割合が38.1%にまで達している今日において、AIを通してAIが苦手な「喩える」「見立てる」「繋げる」を学び、ICTを活用して子どもと子どもの学びをつなげる有用性をお話いただいた。受講者の感想からは、ICTの新たな視点を得られることで、新しい課題の発見につながったと思われる感想が多くみられた。

新たな試みのnits caféにおいては、教職大学院教授、大学院生、現職教員、教育委員会が教員のキャリアデザインについて、気軽に話し合う場をつくるという教職員支援機構のねらい通り、感想からは、自身の教育活動をふりかえり、様々な意見をいただくことで、視点の広がりと考えの深まりを得られたことがうかがえる。

グローバルでローカルな授業づくりについては、グローバル化の定義に始まり、世界を見る三つのものの見方、国際理解につながる学習では、探究的な学びを取り入れ、その具体に総合的な学習の時間の実践例を紹介した。実践例は、具体的に、教科横断的な内容の扱いもあり、受講者の理解は容易であったが、それが故に、扱いにおける配慮に目が行き、既に実践している受講者からは、新しい配慮の意見が出されていた。感想からは、指導案の実践のその先への感想がみられたことから、一日を通して、ICTを取り入れた外国語活動や、「地球市民」の一員としての生き方を考え、行動できるような学習デザインを考えるというねらいは概ね達成できたと思われる。

(5) 理論編研修実施上の課題

理論編研修は、本年度 6 日間 12 講座を実施している。受講者の声としてあげられる中で、講師の理論的な研修内容の講義を聴くことに価値を見いだす声もある一方、参加者と講義で得られた内容を語り合う演習に対する称賛と時間の確保の声がある。

語り合う演習を意図的に組織した講座は、「病気や障がいをもつ子どもの教育支援」「グローバル人材育成」の 2 講座ある。「病気や障がいをもつ子どもの教育支援」では、講義を 2 講座受けた後にワークショップ形式でテーマ「本日 2 回の講義内容を、「自分ごと」にしよう。」と題して 4 人グループで付箋紙を使ったワールドカフェを行っている。「グローバル人材育成」では、午前の講義の後、昼食直後に、午前の講義を受けた上で「グローバル人材育成を自分の学校で行うには」をテーマに付箋紙に意見を書き k j 法でグループ討議を行い、ワールドカフェで意見の拡散を行った。この時は、飲み物とお菓子を用意し話しやすい雰囲気づくりを大切にした。



この 2 つの演習の成果として「他のグループとの交流で意見を聞いていただいたときに衝撃が走りました」「聞いた話からとても興味深い話が多くありました」という感想に表れるように、受講者の生の声を聞きあい、講義内容で得た知識を自分の学校に当てはめることで、多様な対処方法や理解があることを知る活動に価値を見いだすことができる。

理論を聞くことが目的の理論編研修ではあるが、聞いた後学校へ帰ってどのような実践をしたらいいのかを受講者同士で情報交換することは受け身の講義形式の研修の成果の還元に役立つのではないかと考える。



2 拡散編研修講座

(1) 研修の背景やねらい

理論編研修とは、理論編研修を録画しておき、その中から 10 分間程度の理論編内容を抜き出し、ビデオ化した映像と理論編研修で実施した演習や学習カード等を用いて、受講者が現任校で実施するミニ講座のことである。

拡散編研修は、受講者の都合に合わせて実施しているため、その期間も人数も会場も不定期で行うことができ、参加者が空いた時間で個人的都合に合わせて実施するスタイルもあれば、学校で一堂に会してビデオを視聴し、受講者が講師となって研修を実施するスタイルもある。

(2) 対象、人数、期間、会場、日程、講師等、各研修の内容など

実施校等配下の通りである。講師は、実施校の先生である。なお、DVD の配付は、対象者が同一の学校の場合は、重複して配付していないため、対象者数と学校数が一致しない。また、病気や障がいをもつ子どもの教育支援では、内容が子どもの具体的な案件を扱っていたため、DVD を作成していない。

研修項目	DVD 配付		拡散編研修		
	対象者数	学校数	実施校、サークル名	対象者数	実施状況
新しい方向性としてのカリキュラム・マネジメント	45	41	上田市長和町中学校組合立依田窪南部中学校	5	動画データを空き時間に見てもらい話をした
			松本市立本郷小学校	9	3 日間の自主研修として設定。都合の良い日に、興味ある先生が参加するという形をとった
			安曇野市立豊科南中学校	6	自分が研修内容について話し、ビデオを見て内容について話をした
			小諸市立坂の上小学校	7	研究部会で映像を流しながら開催者が説明し、意見交換をし ICT 利用について探った
ICT が苦手な人のための初歩の初歩講座	22	22	宮城県仙台教育縁太会	25	教員仲間約 25 名での学習サークルで視聴し意見交換した
			福島県二本松市立新殿小学校	17	ICT を活用した授業を中心に、新しい技術や教育観から生まれる授業に興味を持ってほしいという目的をお話してガイダンスを行い、DVD を視聴する。その後近くの方と意見交換した
			諏訪市立城南小学校	24	夏休みの職員研修の中の 1 つ。センター研に行った職員が 1 人 5 分ぐらいで発表し合う会

学力向上 のための 学級づく り	43	39	坂城町立坂城小学校	9	校内研修の時間を 30 分程いただき抜粋 して皆で見た後フリートークをした
			木曽町立木曽町中学校	3	職員会で連絡し実施した
病気や障 がいをも つ子ども の教育支 援	24		講演に取り上げている内容から、DVD 作成を行っていない。		
主体的・ 対話的で 深い学び に向かう 授業づく り	76	67	中野市立永田小学校	13	学校では年に数回の教員研修の時間を 設定している。その 3 回目の研修会の時 にこの研修を実施した
			長野県松本蟻ヶ崎高等 学校	16	ビデオを視聴した後、疑問や問いが生ま れる授業、生徒につけさせたい力、現実 の状況について意見交換した
			豊丘村立豊丘南小学校	8	職員会議で 10 分間研修として時間をい ただいた
			木曽町立木曽町中学校	2	ビデオ視聴後、補足説明した
			飯綱町立牟礼西小学校	10	研修の時間を使い全職員に視聴してい ただいた
グローバ ル人材育 成を目指 した授業 づくり	12	12	東京都立大学塩尻高等 学校	10	最初に研修内容について概要を説明 し、ビデオを見てもらった。そしてご自身 のグローバル人材の考えと教科としてや るべきことを話してもらい科としての方向 性を確認した
合計	444	181	14	164	

(3) 研修の評価方法、評価結果

(3)-1「新しい方向性としてのカリキュラム・マネジメント」

〈開催者〉このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・このような研修を行う機会が増えていくと良いと思った ・自分の研修をこのように拡散していくのは良いと思った
〈受講者〉このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・ビデオのように研修を共有できるのはとても良い ・出向く労力が省け、研修する時間が増えるのは良い ・課題、テーマごとに動画が分割されておりわかりやすかった ・ポイントだけ字幕が入ると分かりやすい

- ・はじめにどんな内容の話なのかのテロップがもう少し詳しいと良い
- ・今回見た 15 分だけでは断片的であったと思う、基本の考え方をふまえた方法を紹介して欲しい

(3)-2 「ICT が苦手な人のための初歩の初歩講座」

〈開催者〉 このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・初歩の初歩講座出席者が拡散編研修の講師という立場は無謀な試みだったが、ビデオに助けられた ・(iPad を)操作しながらでも DVD なので再生、一時停止、巻き戻しが自由自在なので活用しやすい
〈受講者〉 このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・「初歩の初歩研修の講座」に出席した人は負担であるが、ビデオによりそれも不可能ではなくなる ・ビデオを使って拡散することで、分かりやすい内容をそのまま聞ける ・センター研修をセンターに行かなくて学べるのはありがたい ・現代のニーズ (ICT) と学校現場とのギャップを感じた。現代に取り遅れていると感じた ・見やすく編集されていていいところをかいつまんで見ることができて良いと思う ・ICT などは自分で実際にやってみないと分からないこともあるが、これをきっかけに講座の受講を考えてみたいと思った ・その場ですぐに質問ができない ・録画されたものを見ているという感覚だった。もう少し臨場感や後から編集している良さが欲しい

(3)-3 「学力向上のための学級づくり」

〈開催者〉 このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・伝わりにくい所もあり、伝えたいことが最後にまとめてあると助かる
〈受講者〉 このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・研修の負担が軽くなる ・研修報告で大切なことを伝えられるのが良い ・大切な所を短くまとめており、ありがたい ・内容と時間はいいが、早口で整理する時間が欲しい ・早口で理解できなかった

(3)-4 「主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり」

〈開催者〉 このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・ビデオは要点的にまとめられていてよい。研修に参加したものにとっては、ますます有意義である。初めて見る者にとっては、冒頭のタイトルなどで心の準備を測る工夫が必要かもしれない ・ビデオがあると開催する側の負担が少なくてより気軽に研修ができ良いと思います
〈受講者〉 このビデオを使った拡散編研修についてのご意見
・スライドも先生方の表情も両方映してくださり、大変わかりやすかったです ・なかなか出張って研修することが難しいので、学校内で研修ができて良かったと思います ・ビデオにしてもらうことで書きとめておきたい内容をゆっくり視聴できるところが良いと思います

- ・話し方のスピードが速いので伝えたい内容が多いと思うがゆっくり話して欲しい
- ・受けられる研修は限られているので、拡散編研修があることは良いことだと思いますが、一部の切り取り研修なので伝わりにくい点が多いと思います
- ・ビデオでの研修は一方向で受けた側は、返すことができない。せっかくやるなら双方向の研修をした方が印象にも残るし、身に付く割合が高いのではないかな

(3)-5「グローバル人材育成を目指した授業づくり」

〈開催者〉このビデオを使った拡散編研修についてのご意見	
・忙しい業務の中研修に参加できるのは年に数回なので他の人が行った研修をこうした形で見ることができればとても良いフィードバックになると思いました	
〈受講者〉このビデオを使った拡散編研修についてのご意見	
・ビデオで拡散させるのは良いアイデアだと思います ・短く、もう少し見たかったです ・情報が足りない所以他の方に進められるかどうか今の時点では分かりません ・研修に参加した先生からの説明や資料はあったが、事前資料が足りないと思った	

(3)-6 拡散編研修のアンケート結果

回答の対象者	調査内容	できた	ややできた	ややできない	できない
開催者のみ	問 1 拡散編研修の目的は達成できたか	2 (13.3%)	12 (80.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)

		よいと思う	ややよい	やや悪い	悪い
開催者のみ	問 2 ビデオを使い勤務先で実施することについてどう思うか	4 (33.3%)	5 (41.7%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)
受講者のみ	問 3 ビデオ映像の部分だけではなく他の研修内容も聞いてみたくなったか	46 (33.3%)	68 (49.3%)	23 (16.7%)	1 (0.7%)
受講者のみ	問 4 ビデオを使った研修についてどう思うか	61 (45.9%)	61 (45.9%)	10 (7.5%)	1 (0.8%)
開催者＋受講者	問 5 ビデオ内容は解りやすかったか	45 (29.2%)	83 (53.9%)	25 (16.2%)	1 (0.6%)
開催者＋受講者	問 6 ビデオ映像は満足いくものだったか	27 (17.6%)	91 (59.5%)	33 (21.6%)	2 (1.3%)

開催者＋受講者	問 7 ビデオ内容の分量は適切だったか	70 (46.4%)	65 (43.0%)	14 (9.3%)	2 (1.3%)
開催者＋受講者	問 8 ビデオ映像を今度はあなたが主催者としてまだ見えていない人に伝えたいか	25 (17.0%)	69 (46.9%)	47 (32.0%)	6 (4.1%)

(4) 研修実施上の課題

DVD を用いた拡散編研修に関して、受講者は実際の講座の核となる部分を見て、聞いて学ぶことができるという点で、研修内容のダイジェスト版の内容は、伝わりやすいものがある。学校外へ出て学ぶことの難しい教員にとって、長野県総合教育センターの研修内容に触れることができることに有意義な成果がある。

一方で DVD の講師が話す内容の分かりづらさを指摘する意見がある。120 分にわたる講演から、ダイジェストで 10～15 分だけを抜き出したことでの分かりづらさであるとする。ただし、録画映像であることから、何度も聞きなおしたり、周りの教員と対話をしたりする等で、わからない内容を解消する方法もあるが、受講者同士で話し合うという形態をとった研修を企画した場合とそうでない研修では、この理論編研修に対する好意度が変わることがアンケートから明らかとなった。小規模な身内的な教員の集まりの拡散編研修であっても、参加者同士で意見を交換する機会を設けることは、理論編研修での課題解決と同様に重要な対策であるとする。

さらに iPad を用いた ICT 講座では学校に機器がないために、学校で実習が行えず、長野県総合教育センターで、開催者が体験した研修の再現が難しい場合も起こる。開催者には学校の実情に合わせて拡散編研修を行っていくことを求めているが、タブレット PC やインターネット環境がないという物理的要因で実施できないという意見に応える必要はある。そこで、iPad やプリペイド SIM 等を本学が購入し貸与する。ただし、貸与に伴う送料や破損などに対応することには限度があり、本学で機器の手渡しができることを原則に貸与のシステム化をしていく。

DVD 内容に関して、要点がまとめられていて分かりやすいという意見が多いが、短く物足りないという意見もある。ビデオの映像は、講師の姿と講師が示したスライドの両方を映したり、スライドだけを音声にかぶせて写したり、映像からも内容が分かる編集を試みたりしたが、講師の内容が理解しづらく、テロップがほしかったという意見もある。拡散編研修で用いた DVD は 7 割以上の教員が分かりやすく、満足する内容であり、8 割以上の教員が長野県総合教育センターで行われる他の理論編研修にも興味を持つと応えていることから、興味関心の広がりにも役立つことが明らかとなった。

この拡散編研修は、DVD を用いる研修であることから、不定期で、長期的に実施することができる。上記に見られる実践上の課題はその都度検討し解を提供することで、より長く利用していただくことを願っている。

Ⅲ 連携による研修についての考察

拡散編研修を取り入れた最大のメリットは、1校辺りの参加者数が、理論編研修では、1校辺り3名。拡散編研修では1校あたり12人となり、費用対効果は高く、講座内容の拡散に役立つ。ただ、理論編研修の全体をビデオに収めたわけではないので、ビデオ映像だけでは、内容が理解できないという課題はある。

長野県という広い面積に、小規模校やへき地校が点在している地形的な要因を鑑みると、上越教育大学の連携で、講師をそれぞれの場所に派遣することはこんなのであり、研修をビデオ映像などで、内容を活用する今回の連携による研修方法は、メリットが多い。

今後は、理論編研修の携帯に、拡散編研修実施の演習を取り入れることで、受講者が講師となったときにとまどうことがなくなると考え、本プログラムの課題を解決できるのではないかと考えている。

Ⅳ その他

[キーワード] 教員研修, DVD 作成, 受講者が講師役, 拡散編研修, 理論編研修

[人数規模] D. 51 名以上

[研修日数(回数)] A. 1 日以内

【問い合わせ先】

国立大学法人 上越教育大学

大学院学校教育研究科 教育実践高度化専攻(教職大学院)

教授 桐生 徹(kiryu@juen.ac.jp)

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL 025-521-3436

長野県教育委員会

長野県総合教育センター 企画調査部

〒399-0711 長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4

TEL 0263-53-8802